

MediaDo ADVICS Kageyama Racing



SUN'S CREATE Co., Ltd.

A2 TECHNICA



AOBA Driving School



SS StarFive Motor Racing Store



R'S DESIGN MOTORSPORTS



MSTASHI

M's Auto Mobile Service



SUN'S CREATE Co., Ltd.

OFFICE SUPPORT

アーバスホール

BP RACING GEAR PRINT SERVICE

PLAT2

PROTEX

2019 FIAF4 Rd3

サーキット：鈴鹿サーキット

総エントリー台数：35台

チーム名：MediaDo ADVICS Kageyama Racing

ドライバー：篠原 拓朗

第3戦

予選結果：15位

決勝結果：12位

第2戦

予選結果：12位

決勝結果：12位



5月23日

練習走行 30分×3本

5月24日

練習走行 75分×2本

5月25日 第3戦

予選(30分)

決勝(11Lap)

5月26日 第4戦

決勝(11Lap)

～木曜日～

ドライ

S1

140kmタイヤ

S字・ダンロップ・ヘアピンの入り口のオーバーステアが強かった。リアウイングをホール7→8に変えたが、初期のリアグリップはあるものの限界を超えた時の動きが早く問題解決とはなりませんでした。

S2

70kmタイヤ

リアウイングをホール7に戻した状態でスタートしたところ、マシンバランスは良くなりました。リアの動き出しもスムーズだったので、そのまま決勝の周回数をこなすためにそのままセッションを走り続けました。

リアはきつくなるものの、自分で動きを抑えて走ればタイムの落ち幅はあまり大きくありませんでした。

S3

コーナーの立ち上がりを稼ぐためにリアのトーインを1度つけました。ユーズドタイヤでは非常にオーバーステアが強かったですが、周りはNewタイヤを入れた時にアンダーステアになるとのことだったので、この状態をキープして明日のNewタイヤを履きます。

また、途中でフロントの入りを試したくフロントのスタビを真ん中に変更しましたが、usedタイヤの状態ではミドルからのオーバーステアが消えませんでした。usedタイヤでは良くありませんでしたが、タイヤが良い状態の時は真ん中から1つハード側のフロントスタビも試してみたいと思います。

～金曜日～

ドライ

S1

金曜日の走行枠は75分間×2本です。その中でNewタイヤを2セット使う事が出来ます。（登録した2セットしか使用出来ません。）

初めからNewタイヤでのアタックというわけですが、フィーリングはコーナー入り口でアンダーステア、ミドルでオーバーステアになりストレートも遅くタイムも全く伸びませんでした。

非常に疑問が多くピットに入り、ロガーを見て頂いたところ、ギアが6速に入るたびにチームメイトの2台と5kmずつ速度が遅れていく状況でした。解決策もわからず、エンジンチューナーであるTOM'sさんにも見て頂きましたがエンジンにトラブルはありませんでした。走り直しましたが全く症状は変わらず、少し早めに切り上げチームの方々に調べて頂いたところ…エンジニアさんとメカニックさんの疎通が取れておらず、予定の4倍の数値のトーインがついておりました。

早急に直して頂き、2本目のセッションでセッティングの仕切り直しとなりました。

S2

2本目にはリアのトーを直してアタックしましたが、全体的にアンダーステアが強い状況でした。自分自身もセクター3、つまりヘアピンとスプーンをもっと詰めて行かなければなりません。

ここ数年の中で1番はまってしまっている状態です…

エンジニアさんと話し合いセッティングをオーバーステアの方に大きく変更し、予選のガソリンは少なくして予選の2発をタイム出します。

予選 ドライ

フロントのキャンバー角を付け、フロントの車高を2mm下げてとにかく曲がりやすい状態のセッティングにし、予選を行いました。タイム自体はアタック4周目までは出ますがそれ以降はタイムアップしない傾向です。前日のどうにもならない状況からは少し脱出しましたが、結果は15位・12位と富士の予選とは程遠い結果で自分自身予選後に啞然としてしまいました。主にセクター3.4での遅れが大きく、これほどの差はどの様にして埋めていけるのかを決勝までもずっと考えます。

決勝 第5戦 ドライ

スタート後序盤のペースは良かったですが、中盤以降非常にオーバーステアに悩まされるレースとなりました。また、順位は1周目に抜いた台数分上がったのみで、決勝中にオーバーテイク出来るペースがなかったです。ヘアピンまででは何とか前車に食らいついていけますが、その後はコントロールラインを通過する時には差が開いており、ずっとその差の繰り返しでした。何とかバックストレートまで食らいつきオーバーテイクをし、順位を上げていきたいです。

オーバーステアは周回を重ねるごとに症状が酷くなり、後半はダンロップコーナーでアクセルを戻さないと曲がれなくなってしまいました。明日の第6戦に向けてはリアの車高を2mm下げてオーバーステア対策をしていきます。

第6戦 ドライ

スタート以外は何も出来ないレースにしてしまいました。1周目のアクシデントをギリギリ回避していたのは運が良かったですが、セーフティーカー明けペースが非常に悪く抜かれてしまい、また防戦一方となってしまいました。2レース共にレースペースで追い上げることが出来ず、非常に悔しいレースでした。

まとめ

今回のレースはレギュラーでF4に出ている時から数えてもワーストの成績で、本当に何も出来ずき終えてしまった週末でした。金曜日の練習段階から自分だけではどうにもならないトラブルや悪くなってしまった流れを取り戻せませんでした。しかし遅いポイントはセクター3.4と2年前とあまり変わっていません。何が原因なのか今現在はわかっておりませんが、しっかり突き止めなければなりません。非常に悔しく申し訳ないです。今回も応援して下さいありがとうございました。次戦はSuper耐久24時間です。また次戦も宜しくお願い致します。

